

都道府県・ 指定都市番号	05	都道府県・ 指定都市名	秋田県	研究課題番号・校種名	2 (4)
				領域名	E S D
研究課題	学校全体で取り組む研究課題 (4) E S Dを学校全体で体系的に推進するための教育課程の編成, 指導方法等の工夫改善に関する実践研究				
学校名 (児童・生徒数)	<small>ふりがな</small> 大仙市立大曲南中学校 (81名) <small>だいせんしりつ おおまがり みなみ ちゆうがっこう</small>				
所在地 (電話番号)	秋田県大仙市藤木字上野中70番地2号 (0187-65-2001)				
研究内容等掲載ウェブサイトURL	om-minamityu@edu.city.daisen.akita.jp				
研究のキーワード	「大曲南中E S D」(研究を通して目指す生徒の姿)の設定, 全教育活動を通じた「コミュニケーション能力」の育成, 「共通実践事項」の推進による授業改善, 環境学習を通じた実践力の育成, 異校種や地域, 関係機関との「交流と連携」				
研究結果のポイント	○研究を通して目指す生徒の姿を明確にするために「大曲南中E S D」を設定し, 積極的に発信することで, 生徒や教師の意識化が図られると共に保護者や地域にも学校の取組が周知された。 ○全教育活動でのコミュニケーション能力の育成を目指した取組により, 相手意識をもって話を聞き, それを基に自分の意見が言える生徒の姿が見られるようになった。 ○全教科等で「共通実践事項」を推進し, 特に「比較・検討を中心とした学び合い」を重点として授業改善を進めたことが, 生徒の思考の深まりや広がりにつながった。 ○総合的な学習の時間や生徒会活動の中で「大曲南中E S D」を意識させたことで, 身の回りの課題に気づき, 解決のための手立てを講じて実践するという「態度化」が見られた。				

1 研究主題等

(1) 研究主題

持続可能な社会に向けた人づくりを目指した

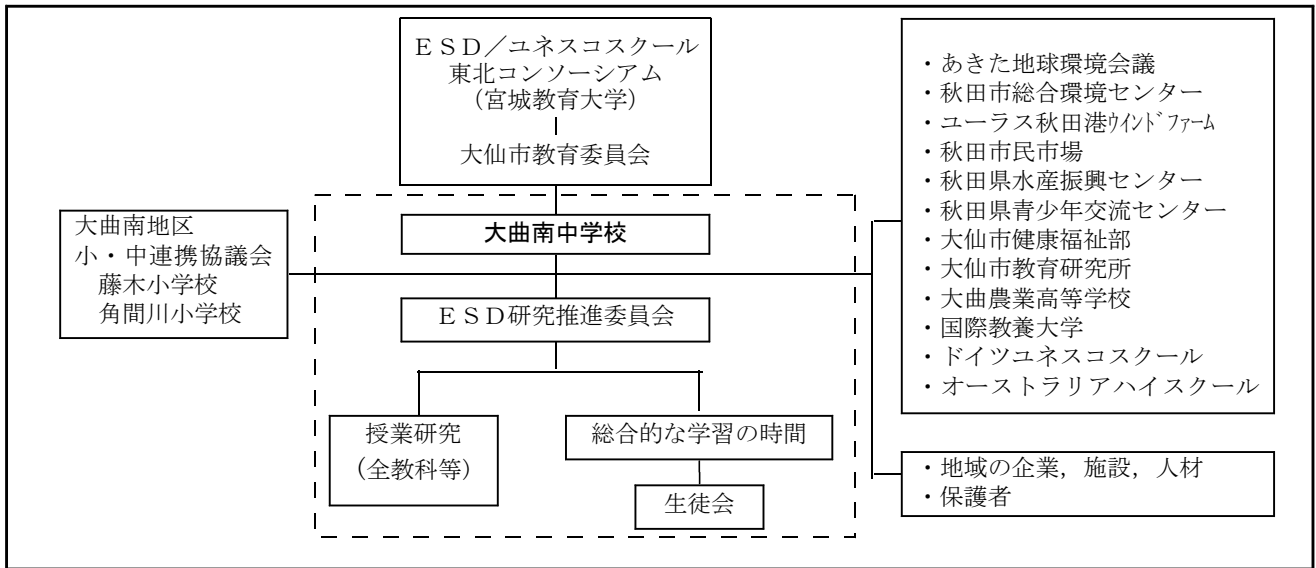
問題解決的な学習を中心とする全教育活動における指導方法等の工夫改善

(2) 研究主題設定の理由

本校は, 平成22年度にユネスコスクールに認定され, 環境教育を中心にE S Dの視点を取り入れた教育活動を展開している。その中で, 近隣の小学校, 高等学校, 地域, 関係機関との「交流と連携」を充実させながら, 「考え, 行動する環境教育」を目指している。平成27年度から, 大学や海外のユネスコスクール等との交流にも取り組み, 更なる深化・充実を図っているところである。また, 各学年における総合的な学習の時間の柱として, 「食育」「エネルギー教育」「国際教育」を位置付け, 体験を通じた思考力・判断力・表現力等の育成を重点とした「社会的実践力」を育むことで, 「生きる力」の育成に資することを目指している。

本校では, E S Dの目的を「持続可能な社会に向けた人づくり」と位置付け, 具体的な取組としてE S Dを進めるには, 教科間, 教員間の連携がそのための大前提であると捉えている。そこで, 全教育活動を通してE S Dの視点に立った問題解決的な学習を展開し, 「人」「教材」「能力・態度」のつながりを意識した指導の工夫を図り, 持続可能な社会の形成者としてふさわしい「資質・能力」をもった生徒を育成したいと考え, 本研究主題を設定した。

(3) 研究体制



(4) 1年間の主な取組

平成28年度	<p>4月 校内研究体制づくり (ESD研究推進委員会：授業研究部・総合的な学習の時間研究部) ESD校内研修① (研究についての共通理解と進め方について) 「大曲南中ESD」(研究を通して目指す生徒の姿)を設定</p> <p>5月 「総合的な学習の時間」全校オリエンテーション実施 大曲南地区ESD小・中連絡協議会① (②8月, ③10月, ④2月) 生徒・教員へのアンケートによる実態把握</p> <p>6月 ESD校内研修② (講師：東京都連光寺小学校長 棚橋 乾 先生)</p> <p>7月 校内授業研究会 (ESDの視点を踏まえた研究協議) 3年 総合的な学習の時間 (8月：保健体育科 9月：社会科・特別支援 12月：理科・数学科 1月：技術科)</p> <p>8月 ESD校内研修③ (各教科等における比較・検討について)</p> <p>9月 ESD校内研修④ (中間公開研究会に向けた取組について)</p> <p>10月 「総合的な学習の時間」における環境学習の取組発表 (学校祭) 授業公開 (大曲仙北社会科教育研究大会) 3年 社会科 (公民)</p> <p>11月 中間公開授業研究会及び大曲南地区オープンスクール (授業公開：国語・英語, 研究協議会, 小・中交流授業：環境学習, 講演：国研調査官) 先進校視察 (東京都大田区立大森第六中学校公開研究会に参加)</p> <p>12月 生徒・教員へのアンケートによる研究成果の検証</p> <p>1月 秋田県学習状況調査の分析結果から成果と課題の把握</p> <p>2月 ESD校内研修⑤ (今年度の成果と課題の把握及び次年度に向けた研究計画について)</p> <p>※環境学習を中核としてこの他に年間を通して次のような活動を実施</p> <p>食育 (環境出前授業, 有機肥料による野菜栽培, エコクッキング, 市民市場見学等)</p> <p>エネルギー教育 (ゴーヤのカーテン, エネルギー関連施設の訪問等)</p> <p>国際教育 (国際教養大学訪問, ドイツのユネスコスクールとメールで交流, オーストラリアのハイスクールとスカイプで交流, 国際教養大学の留学生による進路集会等)</p>
--------	---

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

- ①全教育活動を通じた「コミュニケーション能力」の育成
- ②各教科等における「批判的に考える力」や「多面的・総合的に考える力」の育成
- ③総合的な学習の時間における「自ら考え行動しようとする態度」の育成
- ④異校種や地域、関係機関との「交流と連携」の充実

(2) 具体的な研究活動

- ①全教育活動を通じた「コミュニケーション能力」の育成
 - ・問題解決的な学習の中で協動的な学びを重視し、小グループの効果的な活用に全教科等で取り組んできた。1グループ4人を基本とし、「司会、記録、発表、反応」という役割をもたせ、「学び合い」の活性化と焦点化を図った。「反応」は、相手の意見に頷いたり相づちを打ったりする、コミュニケーションの基盤となる相手意識をもたせるための係である。
 - ・授業はもちろん、学校生活のあらゆる場面で「受信→思考→発信」のサイクルに基づいた「問い」を発することができるように、「聴く」指導を徹底させた。
 - ・フリートークを通して、生徒一人一人がのびのびと自己表出できるように、生徒主体の集会を継続的に企画運営させた。
- ②各教科等における「批判的に考える力」や「多面的・総合的に考える力」の育成
 - ・全教科等で問題解決的な学習に取り組み「共通実践事項」を設定すると共に、その実践の手立てを明確にした。その中で特に「比較・検討を中心とした学び合い」を重視した。
 - ・「比較・検討」を有効に機能させるために、教師が「何をどのように比較・検討させるのか」という観点を明確にもち、生徒に分かりやすく提示すること、小グループを機能させること、小黒板等を活用して視覚化すること、「聴き方・考えの深め方のポイント」を教室に掲示して生徒や教師の意識化を図ること等、具体的な手立てを確認しながら取り組んだ。
 - ・校内研修の中で、各教科等における「比較・検討」の共通点や教科等独自の視点について具体的な事例を基に協議し、他教科等に学ぶことで実践を深める機会を設定した。
 - ※「共通実践事項」とは、①生徒自らの「問い」を引き出す課題設定、②「受信→思考→発信」のサイクルに基づく「聴く」指導の徹底、③交流を通して課題解決を図る活動の重視、④「比較・検討を中心とした学び合い」の設定、⑤自己の考えを深める「振り返り」の設定の5つである。
- ③総合的な学習の時間における「自ら考え行動しようとする態度」の育成
 - ・「大曲南中E S D」を設定し、本校の目指す生徒の姿と、そのために付けたい力を明確にし、それを表したポスターを掲示するなどして生徒や教師の意識化を図った。
 - ※「大曲南中E S D」とは、『何とかしなければ!』という思いを行動につなげられる人を目指そう!』を目標に、本校生徒の実態から、普段の学習で身に付けたい力を「コミュニケーションを行う力」「批判的に考える力」「多面的・総合的に考える力」とし、総合的な学習の時間を中心に身に付けたい力を「進んで課題を見付ける力」「学んだことを発信する力」「生活に活用する力」とした本研究の指針である。
 - ・総合的な学習の時間や生徒会活動の中で、生徒達に「大曲南中E S D」を意識させながら、身の回りの課題に気づき、自分たちは何をすればいいかを考えさせる機会や場を設定した。
- ④異校種や地域、関係機関との「交流と連携」の充実
 - ・小・中合同研究として、「E S Dの視点に立って重視する能力・態度」を、各発達段階に応じて具体的な子供の姿で表した。それに伴い「E S Dカレンダー」の見直しと改善を行い、「E S Dの視点で身に付けさせたい力」を視覚的に捉えやすいようにした。

- ・大曲南地区環境オープンスクールを継続して実施し、小・中交流授業として「環境サミット『あなたが地球と地域を守る日』in 大曲南エリア」というテーマで、地球の環境問題について皆で考え、「自分たちができることは何か」について意見交流した。
- ・国際教育の一環として、国際教養大学、ドイツのユネスコスクールとの交流に加え、オーストラリアのハイスクールとのスカイプによる交流を取り入れ、自国の文化や環境保護について英語をツールとしたコミュニケーション活動を定期的に行った。

3 研究の結果と今後の取組

(1) 研究の結果

成果について

- 「大曲南中E S D」を設定し、ポスターやホームページ、学校報等で積極的に発信したことにより、学校教育全体でE S Dを体系的に推進していることについて生徒や教師の意識化が図られると共に、保護者や地域にも学校の取組が周知され連携が強まった。
- 授業における小グループを中心とした「学び合い」の充実や、生徒の企画運営による生徒集会の継続により、自分の考えを積極的に発言したり、相手の考えを基に発言したりする力が育まれた。
- 総合的な学習の時間や生徒会活動でも「大曲南中E S D」を意識させたことで、生徒会執行部を中心に、あいさつ運動や熊本地震、ユニセフへの募金等、自分たちの課題や身の回りの課題に気づき、解決のための手立てを講じて実践しようとする「態度化」が見られるようになった。
- 「大曲南中E S D」に係る生徒アンケートでは、「相手意識をもって聞く」「相手の考えを受け止めて自分の考えと比較し、共通点や相違点を考えながら聞く」「話し合い活動の中で自分と他者の考えの共通点や相違点を捉えている」という項目で数値の上昇が見られ、「コミュニケーション能力」や「批判的に考える力」の高まりが確認された。また、「進んで課題意識をもつ」に関する項目にも伸びが見られた。(5月と12月に実施)
- 授業公開では、参観者から生徒のコミュニケーション能力の高さや思考や発言内容の深まり等について高評価を得るなど、研究の成果を他者の目に映る「生徒の姿」としても捉えることができた。

課題について

- 全教科等での「共通実践事項」の定着が今一步であり、授業改善についての教師の意識に差がある。
- 総合的な学習の時間における環境学習については、ねらいや付けたい力を十分明確にできていないため、活動に深まりがなく、生徒の確かな力につながっていない。
- 「大曲南中E S D」に係る生徒アンケートで、「相手の意見を聞き、さらに自分の考えをもう一度見直しよりよいものにする」「物事をメリット・デメリットの両面から見る事ができる」については数値が伸びておらず、更なる授業改善が必要である。

(2) 今後の取組

- 今後も「大曲南中E S D」を研究の指針として取り組んでいくことになるが、今年度の成果と課題を踏まえ、「生徒に身に付けさせたい力」は何か、「そのためにどんな手立てを講じていくのか」について、全教員が明確に、そして具体的に捉え、日々の授業実践に生かすことが大切であり、そのための研修を意図的・計画的に行っていく。
- 継続した環境教育の取組は本校の特色となっているが、活動内容については改めて見直しを行い、生徒に付けたい力と活動内容との整合性を検討していく。
- 大曲南地区で小・中連携を通してE S Dを体系的に進めるために、小・中の合同研究を充実させるなど、今年度見直しをした「E S Dカレンダー」について、より活用しやすいものを目指すと共に、そこに示された諸行事、諸活動の不断の見直しを行っていく。